

科目名	環境保健学特論 (Advanced Study on Environmental Health)			科目コード	M320
選択区分	選択	履修時期	1 前	単位数 (時間)	2 単位 (30時間)
担当教員	鳥居 順子			関連DP	医③⑤⑥
授業概要	種々の環境要因が我々の生活環境に存在し、健康に影響を及ぼしている。環境要因を正確に把握し評価することは、環境の保持と健康な生活にとって重要である。本特論では、生活環境の中で健康に影響を及ぼす社会的環境要因や化学的環境要因を中心に概説する。更にそれらの測定法、測定結果の評価法、対策などの情報を提供し、良好な環境を維持しかつ環境に関する諸問題を解決する方策を議論する。				
授業目標	本特論では、生活環境の中で健康に影響を及ぼす社会的環境要因や化学的環境要因を理解する能力を身につけることを目標とする。また、それらの測定法、測定結果の評価法、対策などを学び、良好な環境を維持しかつ環境に関する諸問題を解決する能力の向上をめざす。				

授業内容とスケジュール

回	項目	内 容
1	環境と健康	種々の環境要因の整理と健康影響
2	環境疫学	環境リスクと健康リスク、リスクの評価、エコチル調査
3	健康リスクにおける環境要因と主体要因	遺伝学的素因との相互作用 (双子研究、遺伝子多型、エピジェネティクス、DOHaD 説)
4	わが国の環境問題と環境問題のグローバル化	公害、地球環境問題と気候変動、越境汚染、持続可能な開発目標 (SDGs)、環境基本法
5	環境汚染に伴う健康リスク (1)	大規模災害に伴う健康リスク-1 (放射能汚染、火山性ガスと火山灰)
6	環境汚染に伴う健康リスク (2)	大規模災害に伴う健康リスク-2 (大震災、洪水・ゲリラ豪雨、震災アスベスト)
7	環境汚染に伴う健康リスク (3)	地球環境変化による健康リスク-1 (オゾンホールと紫外線、地球温暖化)
8	環境汚染に伴う健康リスク (4)	地球環境変化による健康リスク-2 (越境汚染物質)
9	環境汚染に伴う健康リスク (5)	流通後製品の残留・廃棄物による健康リスク-1 (鉛、残留性有機汚染物質)
10	環境汚染に伴う健康リスク (6)	流通後製品の残留・廃棄物による健康リスク-2 (農薬・殺虫剤、廃棄物)
11	環境汚染に伴う健康リスク (5)	医療機関の化学物質管理と廃棄物処理
12	環境汚染に伴う健康リスク (6)	その他 (公共・企業・個人の活動) の健康リスク (微小粒子状物質、室内汚染としての受動喫煙、ベンゼンなどによる大気汚染など)
13	環境汚染による健康障害事例 (1)	公害病 (水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息、大気汚染、慢性砒素中毒症)
14	環境汚染による健康障害事例 (2)	六価クロム事件、ダイオキシン類汚染、アスベスト近隣曝露、重油流出事故、砒素ミルク中毒事件
15	まとめ	環境問題からの教訓、環境倫理、関連法規 最終課題のプレゼンテーション
成績評価方法	最終レポート (35%)、各回のプレゼンテーションとディスカッション (65%) で評価する。	
必携あるいは参考図書・文献	参考図書：車谷典男 (監修) 環境による健康リスク 診断と治療社 川添禎浩 (編集) 健康と環境の科学. 講談社 レナート・メラー 編 清水英佑他監訳 環境医学入門—環境リスク要因と人の健康の相互関係 中央法規出版	
授業時間外の学習について	14 回までは各回ミニプレゼンテーションを課す。最終レポートのプレゼンテーションを準備する。	
関連科目	321 環境保健学演習	
備考	ディスカッションを通じて主体的、積極的な講義への参加を希望する。	